

# 採取用綿棒及び抽出方法変更のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。



この度、子宮頸管粘液中顆粒球エラストラーゼ用容器の採取用綿棒が変更になります。それに伴い抽出方法も変更させていただきます。

先生方には急な変更となりご迷惑をおかけしますが、ご了承の程よろしくお願いたします。  
謹白

## 記

■ 変更日 2025年2月より順次

■ 対象容器 子宮頸管粘液中 顆粒球エラストラーゼ用

変更点	新	現
容器形態 容器記号：VP6 (旧容器記号 W6)	 スワブ容器にラベルあり	 スワブ容器にラベルなし

※赤枠内：変更点



## ■ 留意事項

・綿棒変更に伴う測定値の変化を社内検討し確認しましたところ、抽出方法の手技による測定値の影響度が大きいことがわかっています。

・現：変更前の綿棒（スワブ容器にラベルなし）を使用しての抽出と新：変更後の綿棒（スワブ容器にラベルあり）を使用しての抽出では手技が違いますので、採取の都度、取扱説明書の抽出方法を確認のうえ採取、抽出をお願いいたします。



## ■ 抽出方法の変更点

変更点	新	現
抽出方法	 <p>検体抽出液がしみ込んだ綿棒を、抽出容器壁面に軽く押しつけて、抽出液が滴らない程度にした後、取り除きます。</p>	 <p>綿棒にしみ込んだ検体抽出液を抽出容器ごと指で押しつぶす等して絞り出した後、綿棒を取り除きます。</p>

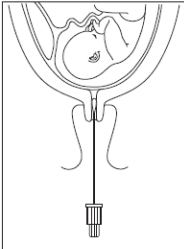
## ■ 変更後の検体採取方法と抽出方法 ※ 総合検査案内2024 容器の取り扱い方法④

**1 検体採取方法**

- 子宮頸部の粘液を綿球で丁寧に拭き取ります。
- 綿棒を子宮頸管内腔に挿入します。
- 綿棒をゆっくりと2回転させ、頸管粘液(滲出液)を採取します。

**■ 注意事項**

- 1) 子宮頸部より採取して下さい。
- 2) 検体採取は膈部洗浄前に行ってください。
- 3) 綿棒が外子宮口周辺の分泌物や粘液に接触しないようにして下さい。  
綿棒の先が初めて接触する部分が頸管内腔であるように挿入して下さい。
- 4) 綿棒1回転あたり約5秒をかけ、自然に粘液(滲出液)をしみ込ませるようにして下さい。  
少量の固形物が付着した場合は、ピンセット等で取り除いて下さい。又、大量の固形物が付着した場合は、検体採取をやり直して下さい。



正しい採取部位

5) 採取した検体は15分以内に抽出操作を行ってください。

**2 \*\*抽出方法**

- 抽出液の液面が、抽出容器の液量確認線の筒にあることを確認します。なお、抽出液がキャップ中に付着している場合があるので、振り落とした後に液面の確認を行ってください。
- 頸管粘液(滲出液)を採取した綿棒を浸けて、2~3分間放置します。
- 綿棒を20~30回細かく上下させて検体を抽出します。
- \*\* 検体抽出液がしみ込んだ綿棒を、抽出容器壁面に軽く押しつけて、抽出液が滴らない程度にした後、取り除きます。
- フィルターをセットします。
- 検体抽出液を検体保存容器へ濾過します。この時の加圧は1回のみとし、5~7滴(約300μL)を分取します。必要量を得られない場合は検体採取からやり直して下さい。
- 検体保存容器にキャップをし、容器ラベルを貼って保存します。冷蔵(8℃)で3日以内、冷凍(-15℃以下)で3カ月以内に測定して下さい。